

「前」の次は「後」

奥利根 檜俣川後深沢

棚橋

【日時】 2014年 7月 26日（土）～ 27日（日）

【メンバー】 L佐貫、棚橋、野口、伊地知

久々の奥利根。しかも檜俣川となると入会した年に訪れた（連れていって頂いた）、とても思い出深い前深沢以来なので十数年ぶりである。檜俣川は以前にも増して林道歩きが長くなっているようなので、狩小屋沢下降からのスタートとしていた。しかし土曜午後の天候不順予報のため、ならまた湖からのアプローチに変更したので、林道歩きは長いが締め切り時間と距離のプレッシャーからは開放された。

7月 26日 晴れ

仮眠地から移動し、ゲートの前に車を止めて歩き出す。入口からすぐの所で崩壊しており、このため林道は通行できず荒れているようだ。林道をしばらく歩き、右から合流した先で後ろから車3台がやってきた。



釜を持つナメ滝が続く

話しをしていると車に乗せていって下さるといふ。彼らはM氏御一行で、感謝し乗せて頂く。おかげ様で一時間位は短縮できたか。

更に山道を進み、狩小屋沢を越えた先で一度本流へと下りる。このまま本流を進むか、対岸の踏み跡を辿るか話しをしたが、後続の釣果に影響がないよう後者を選択する。しかし、それも間もなく檜俣川へと導かれる。

櫛俣川は水量豊富で夏向きの沢だ。淵の縁をへつったりしながら進んでいくと矢種沢を分ける。その後は釜を従えたナメ滝がしばらく続き、楽しく越えていける。前深沢の出合は顕著で、ここを本流から右に入ると間もなく後深沢を分けている。ここでトラブル発生。佐貫のビブラム沢靴のソールが、踵から土踏まず位まで大幅に剥がれている。今日履き下ろしたばかりの新品だというのに。とりあえず先に進むことになったが本人はこれからの行程、楽しむどころではないだろう。出合の 7m 赤い滝は滑り易いので慎重に登り、その後も小ゴルジュに懸かる滝を幾つか登って通過する。あまり進んでしまうと幕場が得られ難いので、7*15m のナメ滝を越えた後は少し（かなり？）早いですが、幕場を物色しながらの遡行となる。幾つか候補地を見送りながら進むと右岸に、まあ安心して泊まれそうな台地が見つかった。まだ昼前だが、この先に幕場は期待できそうもないので今日はここまでとする。薪も沢山集まり、虫もいない良い幕場であったが、欲を言えば気温、水温共に高くビールはあまり冷えなかった。

7月 27日 晴れ後雨

心配された雨にも降られず、穏やかな朝を迎えた。昨日は早仕舞いだったので今朝は暗いうちに起きだし、5時半に出発する。

小ゴルジュに懸かる連瀑を登ると中深沢を右に分け、いよいよ後深沢に入る。ナメ滝を越えるとインゼルの先で二俣になっており、右俣に入る。下部が樋状の 6*12m ナメ滝を越えた後も登れる滝が続き、楽しませてくれる。その後は一つ一つカウントするのが面倒な位、傾斜の強くないナメ状の小滝が連続しており何れも快適に直登できる。岩状の 8m2段滝を登



上流の7m ジェードル滝



った後も多段のナメ滝がしばらく続き、こちらも問題なく直登できる。6mの黒い滝を登ると小滝が連続しており、その先の4m滝を登ると標高1700m付近で右に枝沢を4:1で分ける。

8*30mのルンゼ滝、7mジェードル滝を登ると標高1900m付近で二俣となり、方向と溪相を見て左の涸沢を詰めることにする。落石に注意しながら進み、更にハイマツが生えている斜面を登ると稜線に出る。

沢中では天気良かったが、至仏山を目指して稜線を進んでいくと雨がパラパラ落ち出し、そのうち雨具が必要な位の降りとなる。人の声が大きくなると間もなく山頂に着く。総勢30名位はいたかと思う。下降路にも登山者が何パーティもいたが、道を譲って頂いたりしてマイペースで歩けたので、順調に鳩待峠に着く。ここには今までにも増して人が大勢いた。我々は休む間もなくタクシーにて車の回収に向かった。

久しぶりの櫛俣川は、相変わらず明るくて快適な沢であった。結果的には日帰りでもできそうなコースタイムだったが、車に乗せて頂いたことが大きい。再度櫛俣川を訪れる際も時間に余裕を持って楽しみたい。

【グレード】 2級

【行程】

7/26 ゲート前 (6:14)～狩小屋沢出合付近 (8:20)～後深沢出合 (10:13)～

Co1170m 付近 C1(11:20)

7/27 C1(5:30)～中深沢出合 (5:50)～二俣 (6:20)～稜線 Co2040m 付近 (9:05)～

至仏山 (10:00)～鳩待峠 (12:20)

【地図】至仏山、(尾瀬ヶ原)

